

1

その中に燻つてゐる螢かな

雨の夜を螢は歩き嬰は這ふ

戦にも恋にも果つる螢かな

たましひのいかにも小さき螢かな

冠に二つ火のある螢かな

大いなる山の麓の螢の夜

たましひのこれは小さな螢かな

牛井を食つて螢を見に行かな

地下鉄の使はぬ駅に螢舞ふ

なれそめの十五十六螢の夜

黒髪の間流るる螢の夜

灯を消して螢に近き机かな

ふりだして恋の螢の行方かな

黒板に文字なき夜の螢かな

翻す魔女のマントや螢の夜

ほうたるの余命を刻む明滅か

止りたる葉先に滲む螢かな

眠りたる螢なるべし動かねど

ほうたるや小学校に誰も居ず

死螢を金魚の墓の隣りへと

夢の世に螢の闇の深さかな

ほうたるや提灯は落ち燃えあがる

宗教も言語も違ふ螢火か

木の国の螢のころに生れしと

をさなごに闇おそろしき螢舟

終列車遣り過したる螢かな

恋螢魔女のマントにびつしりと

サイレンの防空壕に螢かな

終列車彼方に消ゆる螢かな

連絡船は磁気嵐とや螢の夜

ミサイルの美しかりし螢の夜

錠剤の如き螢の死なりけり

螢になまあたたかき夜なりけり

暗闇にトンネルを掘る螢かな

深呼吸などは螢もするものか

螢のどこまで飛べど闇の中

螢の飛んで光の速さかな

螢火の消えて羊羹甘きかな

螢火は螢の闇の中にこそ

螢火や橋の向ふは真の闇

螢火や小学校の真暗闇

螢火や草葉の陰の忘れ物

落し物
7-10
1am

螢火や庭に埋めし宝物

螢火や秘仏は闇に安らかに

螢火を裸火とこそ言ひつべし

螢舞ふ橋のたもとの人柱

螢舞ふ橋のたもとの柳かな